

平成24年7月九州北部豪雨災害対応報告

業務名 : 平成24年度 市道三寺払・つづら線他道路・河川災害復旧測量設計

発注担当課 : 福岡県うきは市

平成24年7月に九州北部4県を襲った集中豪雨（九州北部豪雨）は、多くの人の命を奪い、また甚大な物的被害をもたらした。九州支社では、被災直後より支援要請を請けた福岡県うきは市に赴き、被災調査、査定準備および実施設計に至るまで一連のサポートを行い、被災地の一日も早い復興の一助となるよう尽力を注いだ。

1. うきは市の被害状況

うきは市内を流れる河川沿いでは護岸の崩落や道路損壊、濁流に洗われた橋梁の落橋など、大きな被害が発生し、市内各地で住宅の損壊、床上・床下浸水、農地流失など被害が拡大した。

山間部では至るところで土砂崩れや浸水による被害が発生し、各地で生活道路が寸断し、田籠地区をはじめ8地域で集落が孤立した。

2. 九州支社の対応

1) 被災状況の調査

平成24年7月15日、うきは市より九州支社に入った緊急対応依頼の一報を受け、翌16日に3名により現地状況視察を行った。19日に行われた災害緊急合同会議にて、市道7路線、2河川の被害調査を当社で行うこととなり、一刻も早く被災地の被害状況を把握すべく、道路、河川、地質技術者からなる災害対応チームを編成し調査に取り掛かった。被災箇所も多くは、急流河川の流水浸食による空石積・練石積護岸の石材流出および道路崩落であった。

2) 災害査定申請に係るサポート

被災状況調査で明らかとなった市道7路線、2河川の災害査定申請19箇所42工区に対し、災害査定申請のための資料準備に係るサポート(査定図・数量、被災写真、野帳図、他)を実施した。

3) 実施設計

棚田が広がるつづら地区では、美しい棚田を形成するため約400年前に山の石を用いて築かれたものが大半であったことから、自然石による復旧を重要視し、景観を考慮して巨石積工(練)による復旧を図った。そして実施設計を順次進め、平成25年12月に全ての設計を終えた。

3. 現在の復旧状況

現在の復旧状況は、平成26年7月末時点において概ね6割程度完成しており(一部地域において水稻作付けや果実の収穫時期を避けたため)、復興が着実に進んでいることが伺える。

【被災直後の状況および復旧状況(平成26年10月)】



